

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース)											
ベーシックレッスン2											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	大野・柴・野村・恒枝・堀越			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
<p>様々な音楽ジャンルで欠かすことの出来ないシンセサイザーの基礎知識を身につけ、ソフトシンセを用い音色を自在に作れるようにテクニックを覚えていく。同時に現在の音楽制作スタイルや実務に必要な様々な波形編集やサンプリング、編集テクニックを覚える。プラグインエフェクトの仕組みとパラメーターの知識、及びデジタル全般の知識を身につける。</p>											
到達目標											
<p>到達目標は、シンセサイザーの基礎であるVCA、エンベロープジェネレーター、フィルターの概念を理解する。現代のシンセサイザーに搭載される様々な機能を使い、任意の音色を作成できる。サウンドメイキングとしてのプラグインエフェクトの概念を把握し、適切に使用することができる。最新の音楽制作事情を把握し、制作に取り入れる事ができる。</p>											
授業方法											
<p>パソコン(1人1台)を使用し、ホワイトボード及びプロジェクターで行う講義内容をCUBASE上で実際に確認しながら進行していく。シンセサイザーや音響エフェクトなどの解説は座学的な要素も含むので、ノートを持参すること。理解度を把握するため適宜サウンド作成の提出課題あり。</p>											
成績評価方法											
<p>提出物及び試験課題60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)</p>											
履修上の注意											
<p>授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。理由のない途中退席は認めない。時として高度な内容を含むので各自予習復習に励むこと。</p>											
教科書教材											
配布プリント・プロジェクター上での解説											
回数	授業計画										
第1回	前期の復習										
第2回	シンセサイザーとは?シンセサイザーの基礎概念と歴史や楽曲を学ぶ。										
第3回	デジタルと音楽について。デジタル上での音楽の扱いやふるまいについて理解する。										

## ベーシックレッスン2

第4回	シンセサイザーの種類について。PCM、減産式、FM方式の仕組みを大まかに理解する。
第5回	シンセサイザーとは？その2。シンセサイザーの信号の流れと各部の働きを学ぶ。
第6回	ソフトシンセサイザーについて。アナログシンセやデジタルモデリングシンセの違いと最新の動向を理解する。
第7回	シンセサイザーとは？その3。VCAで生成される波形のサウンドの特徴を理解する。
第8回	シンセサイザーとは？その4。様々なフィルターの特徴と使用方法を学ぶ。
第9回	シンセサイザーとは？その5。エンベロープジェネレーターについて理解する。EGをVCAやVCFに適用し、そのサウンドの変化を把握する。
第10回	シンセサイザーとは？その6。様々な変調について理解する。
第11回	MASSIVEについて。現代的なソフトシンセを理解し、特徴的な機能を把握する。
第12回	オーディオスライスを用いての制作方法について理解する。またSEを加工し音素材を作り出せるようにする。
第13回	オートメーションを使った高度なサウンドメイキングについて理解する。
第14回	シンセサイザーを使った実践的なサウンドメイキング。リード、パッド、ブラックの三種類を制作することが出来る。
第15回	シンセサイザーを使った実践的なサウンドメイキングその2。リード、パッド、ブラックの三種類を制作することが出来る。

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (ヴォーカリストコース)											
ベーシックレッスン2											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	青木・青野・早川咲・舘・NEEсан・平山			実務経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
この授業はグループで行う。ヴォーカリストにとって「声」とは唯一無二の楽器であり、声を「響かせる」といったポイントに重きを置いてレッスンを行なっていく。その際に個々の音楽に対してのジャンルや個性を偏らせず、より視野を広げる事を目指す上で、他者の声をよく聞いて分析を行う事で相乗効果を促す。ボイストレーニングの一環で身体の強化、リズムトレーニング、ヴォーカリストとしてのパフォーマンス力の向上の為にダンス教育も行う。											
到達目標											
毎日1時間の発声を行うとした場合の各自のトレーニングのルーティンを作る。自分の課題に対して足りない部分のトレーニング時間の割合、良い部分をより伸ばして行くための時間配分をどのように組み立てて実践するのか、きちんと説明しながら発表できることを到達目標とする。初回の授業で目標とする声質や音、課題のポイントを定め、最終回の授業で達成度を確認する。ヴォイストレーニングとは身体や響く声を作りあげると同時に、音感も鍛えることを目標とする。											
授業方法											
個々のボイストレーニング手法をアドバイスしながら、呼吸・筋肉の使い方を学ぶ。また、歌唱方法の違いに気が付く分析力を学ぶ。講師の実演と自身の実演を比較しながらその違いを補正していくことによって発声法を体得していく。											
成績評価方法											
試験課題30%、小テスト10%、提出物20%、成果発表30%、平常点10%											
履修上の注意											
社会マナーとして必要以外のスマホ等の操作は厳禁とする。ヴォイストレーニングはとても繊細で緻密なトレーニングのため、授業とは関係ない私語は一切厳禁とする。理由のない欠席は認めない。飲料を持参する(発声器官の保湿と保護及び、風邪など空気感染症の生徒間感染を予防する)。ダンスの際には運動できる服装とシューズ、タオルを持参する。授業時数の3/4を出席しないものは実技試験を受験できない。											
教科書教材											
必要な場合のみ資料を配布する											
回数	授業計画										
第1回	一人ずつ歌い、前期で意識したことを説明したのちボイストレーニングでの目標を改めて確認できる。										
第2回	一人ずつ歌い、前期で意識したことを説明したのちボイストレーニングでの目標を改めて確認できる。										
第3回	喉の開閉で共鳴を理解し、支えを身につけることができる。										

## ベーシックレッスン2

第4回	喉の開閉で共鳴を理解し、支えを身につけることができる。
第5回	ハミングミックスを習得し、共鳴ボックスで引っ張ることができる。
第6回	ハミングミックスを習得し、共鳴ボックスで引っ張ることができる。
第7回	トゥワングを習得し、しっかりしたミックスボイスの出し方が出来る。
第8回	トゥワングを習得し、しっかりしたミックスボイスの出し方が出来る。
第9回	4beat8beat16beatの違いを身体を使って習得する。
第10回	4beat8beat16beatの違いを身体を使って習得する。
第11回	前期後期を復習したのち、個々のヴォイストレーニングのルーティンを製作することができる。
第12回	前期後期を復習したのち、個々のヴォイストレーニングのルーティンを製作することができる。
第13回	製作した独自のルーティンを説明しながら発表出来る。
第14回	製作した独自のルーティンを説明しながら発表出来る。
第15回	ここまでのトレーニングの成果を理解出来る。

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
ベーシックレッスン2 (Gt/Ba)											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	BAN・高橋竜・永田			実務 経験	有	職種	ミュージシャン				
授業概要											
ギター、ベースの弾き方を学び、各自が専攻しているコースの技術向上、作品や活動の幅を広げること に役立てるようにする。コード表記を理解し、コード譜を読み演奏できるよう指導する。前期から引き 続きアーティキュレーションも身に付けられるよう学ぶ。											
到達目標											
到達目標は、ギターやベースでコード譜を読んで弾けるようになる。コード表記で音の構成を理解 できる。一定のテンポでコード進行を弾くことができる。強弱などが表現できる。											
授業方法											
ギター、ベースにおける必要な楽器知識と理論を学びながら楽器を鳴らし体得する。コード弾き を中心に練習する。コード構成音を理解してコード表記の意味がわかるように学ぶ。											
成績評価方法											
試験課題40%、授業内発表20%、提出物評価20%、平常点20%(学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時 数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。理由のない途中退席は認め ない。											
教科書教材											
配布プリント、楽譜											
回数	授業計画										
第1回	コード譜を見て4分、8分、その混合リズムで弾くことができる。コードがアル ペジオで弾けるようになる。										
第2回	コード進行と3連符の練習。コードがアルペジオで弾けるようになる。										
第3回	コード進行と3連符を含む複合的なリズムの練習。										

第4回	コード進行と16分音符を含むリズムの練習。一定のテンポで弾くことができる。
第5回	マイナー7thが理解できて弾くことができる。
第6回	メジャー7thが理解できて弾くことができる。
第7回	dim、augコードが理解でき弾くことができる。
第8回	4和音が出てくるメジャーキーの曲が弾くことができる。
第9回	4和音が出てくるメジャーキーの曲が弾くことができる。
第10回	4和音が出てくるマイナーキーの曲が弾くことができる。
第11回	4和音が出てくるマイナーキーの曲が弾くことができる。
第12回	任意の曲を移調して弾くことができる。
第13回	任意の曲を移調して弾くことができる。
第14回	課題曲の練習。
第15回	課題曲を通して一定のテンポで弾く。

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
ベーシックレッスン2 (Dr)											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	田原歩			実務 経験	有	職種	ミュージシャン、インストラクター				
授業概要											
ドラムに関する基礎知識や、ルーディメンツを中心に正しいフォームやグリップについて理解をし、各ビートやそれに対するアプローチについて学び、プロミュージシャンとしての最低限の演奏スキルを習得する。更には作曲者やアレンジャーの意図を汲み取り、楽曲に対するリズムアレンジ能力やレコーディング時における注意点、セオリーを指導し、一人一人の個性を活かした楽曲作りも目指す。											
到達目標											
シャッフル、ハネ、スウィングなどの技術習得のために新たなグリップやストロークを習得することを目標とする。1 2/8 ビートや、3 連符を基調としたシャッフルビートや4ビートなどの基本的なビートやシンコペーションについて学びながらも「分の弱点や苦手分野の理解・把握」、「個々の個性を伸ばす事」を意識して学ぶ。結果としてあらゆる形でのデビューでも現場での様々な要求に対応できる知識、技術を身につけることをねらいとする。											
授業方法											
学生個々が持つ身体的特性(手、指や身体の大きさ)等に留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか?と感じながら受けとめ、理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識しながら、受講していただく。授業中の演奏だけではなく、プロのプレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。											
成績評価方法											
試験20%(授業内容の理解度を確認する)、授業内発表30%(技能、及び表現力を評価する)、提出物20%(知識及び思考力・判断力を評価する) 平常点30%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
教科書STICKCONTROL											
回数	授業計画										
第1回	1 2/8 ビートの習得(1)/12/8ビート、6/8ビートの基本パターンの習得と、解釈について理解する。										
第2回	1 2/8 ビートの習得(2)/1 6分音符を絡めた1 2/8 ビート、6/8 ビートを習得する。										
第3回	シャッフルビートの習得(1)/シャッフルビートの基本パターンを習得し、8分ハネについて理解する。										

## ベーシックレッスン2 (Dr)

第4回	シャッフルビートの習得(2)/ゴーストノートを絡めたシャッフルビートパターンを習得する。
第5回	ハーフタイムシャッフルの習得(1)/ハーフタイムシャッフルビートを習得する。
第6回	ハーフタイムシャッフルの習得(2)/ゴーストノートを絡めたハーフタイムシャッフルビートパターンを習得する。
第7回	レゲエパターンの習得(2)/レゲエで使用する基本パターンとアプローチを習得する。
第8回	スリップビートについての理解/スリップビートの解釈について理解し、8分スリップ、16分スリップを習得する。
第9回	レギュラーグリップの習得/レギュラーグリップでのシングルストローク、ダブルストローク、アクセント移動を習得する。
第10回	4ビートの習得(1)/スウィングについて理解し、基本となるライドレガート、ハイハットレガートを習得する。
第11回	4ビートの習得(2)/スネアでのコンピングパターンを習得する。
第12回	4ビートの習得(3)/バスドラムでのコンピングパターンを習得する。
第13回	4ビートの習得(4)/スネアとバスドラムを交えたコンピングパターンを習得する。
第14回	4ビートの習得(5)/4ビート上でのキメ、シンコペーションアプローチを習得する。
第15回	総まとめ

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)											
ベーシックレッスン2 (Key)											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	堀越昭宏			実務 経験	有	職種	ミュージシャン (キーボーディスト/ ピアニスト、アレンジャー、サウン				
授業概要											
様々な演奏の現場に対応するために、アコースティック・ピアノ、キーボードを使った即興的なアンサンブル能力を身につけ、磨いていく。											
到達目標											
それぞれの楽曲の曲想に応じたコード (コンピング、アルペジオ)、リズム・フィール (グルーヴ)、ニュアンス (アクセント)、メロディ/ソロ・ラインを演奏できるようになることを目標とする。観客に届くまでの表現のダイナミクスを獲得することを目指す。											
授業方法											
アコースティック・ピアノ、キーボードのアンサンブルを軸に、曲や履修者によってはボーカルやパーカッションを組み込み、課題曲 (コード譜など) に従ってアンサンブル演奏をしていく。必要な知識 (コード、リズム・パターン、フィル・イン、フレージングなど) はそのつど講師が説明もしくは例示し、演奏に取り込んでいく。											
成績評価方法											
試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
アンサンブル演奏を重視するので、出席率を重視します。更に、4分の3以上出席しない者は試験を受験することができません。											
教科書教材											
配布プリント											
回数	授業計画										
第1回	選択授業オリエンテーション (1) 授業概要説明、課題曲1"FlyMeToTheMoon" (1)										
第2回	選択授業オリエンテーション (2) 課題曲1"FlyMeToTheMoon" (2)										
第3回	課題曲1"FlyMeToTheMoon" (3)										

2020年度 日本工学院八王子専門学校

ミュージックアーティスト科 (プレイヤーコース)

ベーシックレッスン2 (Key)

第4回	課題曲1"FlyMeToTheMoon"(4)
第5回	課題曲2"Don'tKnowWhy"(1)
第6回	課題曲2"Don'tKnowWhy"(2)
第7回	課題曲2"Don'tKnowWhy"(3)
第8回	課題曲2"Don'tKnowWhy"(4)
第9回	課題曲3"TheGirlFromIpanema"(1)
第10回	課題曲3"TheGirlFromIpanema"(2)
第11回	課題曲3"TheGirlFromIpanema"(3)
第12回	課題曲3"TheGirlFromIpanema"(4)、試験曲出題
第13回	試験曲対策 (ヒント提示)
第14回	アンサンブル試験
第15回	後期まとめ (試験演奏の評価、講師による改善意見など)